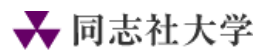

地域コミュニティによる学生支援方策

～京町家を拠点にした

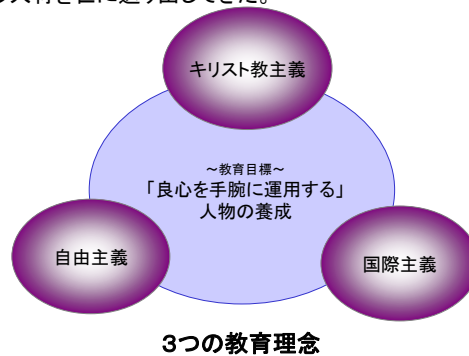
異世代協同プロジェクト～



I 大学の概要

建学の精神と新島襄

同志社大学は、1875年に新島襄によって、その前身となる同志社英学校が設立されたことに始まる。新島襄は江戸時代末期に国禁を犯してアメリカに渡り、帰国した後、キリスト教主義を徳育の基本とする大学の設立を目指した。以来、同志社大学は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の3つの教育理念を掲げ、「良心を手腕に運用する」人物の育成を教育の目標とし、多くの人材を世に送り出してきた。



I 大学の概要

同志社大学の規模

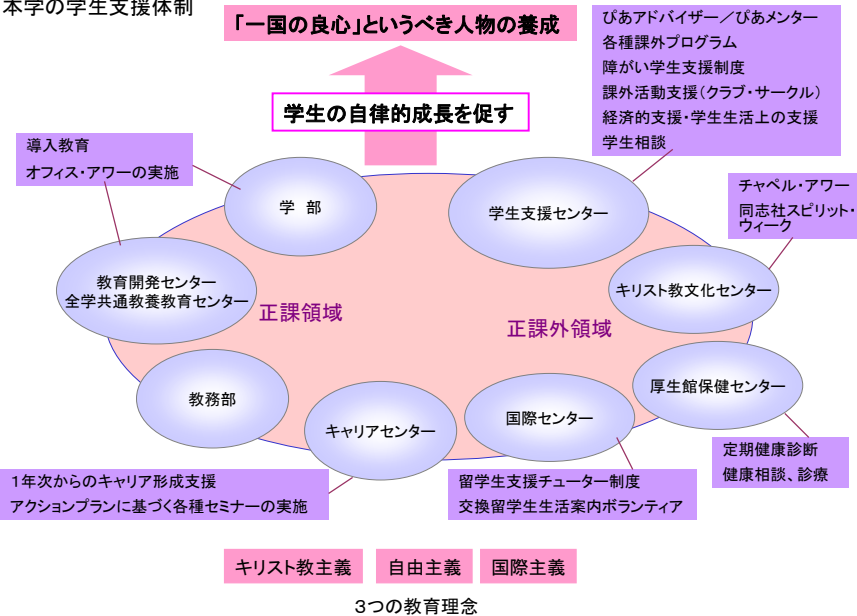
教学組織は9学部11研究科で構成されており、学生数約25,000人、専任教員数614人である。

1986年には京田辺市にキャンパスを開校し、現在は政策学部を除く文系学部の1・2年次生と文化情報学部、工学部の学生約12,000人が学び、政策学部1～4年次生と他の文系3・4年次生の学生約13,000人が今出川キャンパスで学んでいる。

教学組織	9学部11研究科
学生数	25,755人
専任教員数	614人
2つのキャンパス	今出川キャンパス(京都市上京区) 京田辺キャンパス(京都府京田辺市)

II 学生支援の取組

本学の学生支援体制



学生支援センターの取組

90年代後半より、学生を取り巻く環境の変化を実感
学生対応→学生支援へ

● 課外プログラム(個人支援)

各種プログラム→次頁
 ぴあアドバイザー／ぴあメンター
 障がい学生支援制度

● 課外活動支援(団体支援)

体育会支援
 文化系 **クラブ**・サークルの積極支援

II 学生支援の取組

学生支援センターの提供する課外プログラム

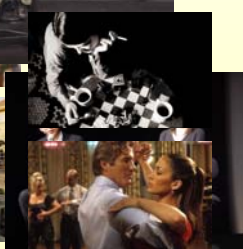
サービス型	キャンパス内のホールを利用した 「映画上映」「コンサート」「芝居公演」	
教養型	各界から著名人や各ジャンルの専門家を招聘しての 「文化講演会」「教養講座」「各種講習会」	
体験型	教職員スタッフも参加しての体験型プログラム 「函館キャンプ」(校祖新島の足跡を辿る) 「自然の中でのアウトドア体験」(四万十川・富士山) 「演劇・合唱等の参加型ワークショップ」	
コミュニティ 形成型	キャンパス内でのコミュニティ形成に関わるプログラム 「フレッシュヤーズキャンプ」 「障がい学生支援制度」	
啓発型	判断力・コミュニケーション力等を養うためのセミナー等 「S-Cubeセミナー」 「キャンパス・コミュニティー・ビルディング・プロジェクト」	



WOT (What's on Thursdays)

◆学生支援課企画プログラム

- 話題作上映
- ゲストトークショー
- ライブ



WOT (What's on Thursdays)

◆共催プログラム

(京都新聞社、上京区役所、映画センター など主催)

- 新作試写会
- コンサート
- 講演会





クローバーシアター

今年度は、喜劇王特集、グルジア映画祭、チェコアニメ祭、イタリア特集 など。 教員によるシネマトークも開催。

寒梅館活用術

- ・着付け講習
- ・茶の湯ワークショップ
- ・フラワーアレンジメント講習
- ・寒梅館で夏まつり
- ・寒梅館でクリスマス



同志社大学における各種プログラム3

・ アッセンブリー アワー

各界で活躍中の著名人を招いての講演会・コンサート・映画・作品展など。



同志社大学における各種プログラム4

・ CLAP(ワークショップ)

・ 演じてみよう！ 身体表現～

(2007年には合唱サークルのコールフレューゲル
サマーコンサートとコラボレートし、市民参加型
歌とお芝居のワークショップ「どんぐりと山猫」を
開催した)



・ メサイアを歌おう！

(2005年以降、学生団体主催のメサイア
演奏会に地域からの一般参加者を加え
て開催しています)



同志社大学における各種プログラム5

・ 函館キャンプ



同志社大学における各種プログラム6

- フレッシュヤーズキャンプ



- スポーツフェスティバル



同志社大学における各種プログラム7

- アッセンブリーアワー学生企画



同志社大学における各種プログラム8

- ぴあアドバイザー制度
- 障がい学生支援制度



同志社大学における各種プログラム9

- ホールアート
- 学校教育ボランティア制度
- 各種ボランティアスタッフ



同志社大学における各種プログラム10

- 各種啓発事業
エンパワーメントプログラム



- S-cubeセミナー



「課外プログラム」(個人支援)

- 「学生個人の成長」
(批判的思考力、問題解決能力、差異の認識力、意思決定力、市民性等)
 - 「他者との関係性」
(自己のアイデンティティ、必要と(する)されること、想像力)
 - 「コミュニティの形成プロセスと展開」
(一般学生、教員、他大学生、地域社会)
- [機会創出]⇒[情報提供]⇒[指導]⇒[励まし]
⇒[評価]⇒[シェア/一般化]⇒[展開]

「クラブ・サークル活動」(団体支援)

<クラブサークル活動の有効性>

- 自主性の涵養
- 集団の中での他者理解の促進
- 先輩後輩の関係による人間的成長のトータルイメージ
- 帰属意識の向上

<新たな活動支援ポイント>

- 効果的な補助金制度(高度化・キャンパス活性化)
- 複数顧問制度(教員・職員によるアドバイザー)
- クラブサークルヒアリング／リーダーズキャンプ
- クラブ表彰制度
- 地域社会の活用(地域や大学とのコラボレーション)
(サークルによる地域情報誌の発行等／地域とのジョイントコンサート)

クラブサークル(文系)の新たな支援ポイント

●アドバイス(情報提供＋応援)をする

- ・副顧問制度、顧問手当増加、顧問懇談会開催
- ・OB会等との繋がりの強化奨励
- ・大学からのマネジメント支援等、各種講習

●オーディエンス(発表機会＋評価)を得る

- ・地域社会との橋渡し
- ・広報の協力
- ・大学行事への協力関係

(参考1)ハーディエンス(ハーディホール友の会制度)

地域やOB・OGの方に寒梅館の各種催しの案内
優待券を配布し、大学のサポーターになってもらっ
ている(08年現在:約2200人)



寒梅館はじめとする学生の企画やクラブ・サーク
ルの催し物にも招待。学生のがんばりへのサポー
ターへ

(参考2)地域コミュニティ誌の創設とイベント参加

- IMAICHI(いま今出川で一番輝いている)
「広告研究会」に地域と大学とを結びつけるミニコミ誌を
の作成依頼。(費用は大学負担、学生支援課と広告研究
会とで簡易な編集会議を開く)



地域の飲食店
学生の諸活動
を紹介



III 本取組の概要

プロジェクト全体像

町家

子ども・学生・高齢者の異世代が行き交い、交流し、地域全体の社会教育機能によって学生にライフスキルを獲得させる。

<常設>

- 町家サークル
- 井戸端会議
- 季節の行事

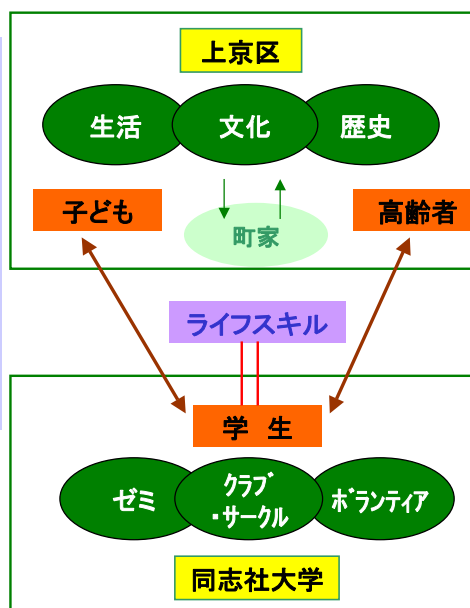
<1年間の取組>

- 歴史的・文化的プロジェクト

<ライフスキル>

『世界保健機構(WHO)』

自己認識／共感性／効果的コミュニケーションスキル／対人関係スキル／意志決定スキル／問題解決スキル／創造的思考／批判的思考／感情対処／ストレス対処



Ⅲ 本取組の概要

社会背景を踏まえた動機

学生を取り巻く様々な社会的課題

- ◆少子化や核家族化
- ◆公共心やモラルの低下
- ◆社会や組織への適合力欠損

現代の学生の生活実態

ワンルームマンション
コンビニエンスストア
友人とのメールのやりとり

異世代の共存する「地域社会との
関わり」や「地域生活」の不足

地域による社会教育の必要性増大

様々なジェネレーションを含む地
域社会と関与させる必要性

Ⅲ 本取組の概要

京都市上京区の特性

- 歴史的特性…有名な社寺仏閣(平安京以来歴史的展開の中心地)
- 文化的特性…茶の湯三千家、能狂言、等の芸術的拠点
- 産業的特性…西陣(織物)に代表される伝統産業の拠点
- 自治的特性…町内会ごとに様々な「慣習」「年中行事」

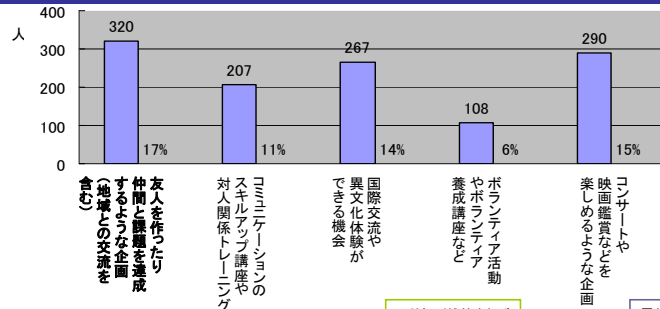


上京区一個性ある17の学区

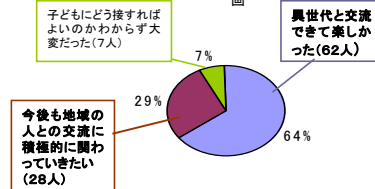
Ⅲ 本取組の概要

学生のニーズ

同志社大学で「こんなことができるといいな」「(もっと)こういうサービスがあれば良いの」と思うもの
【「第12回学生生活実態調査」本学独自設問より】

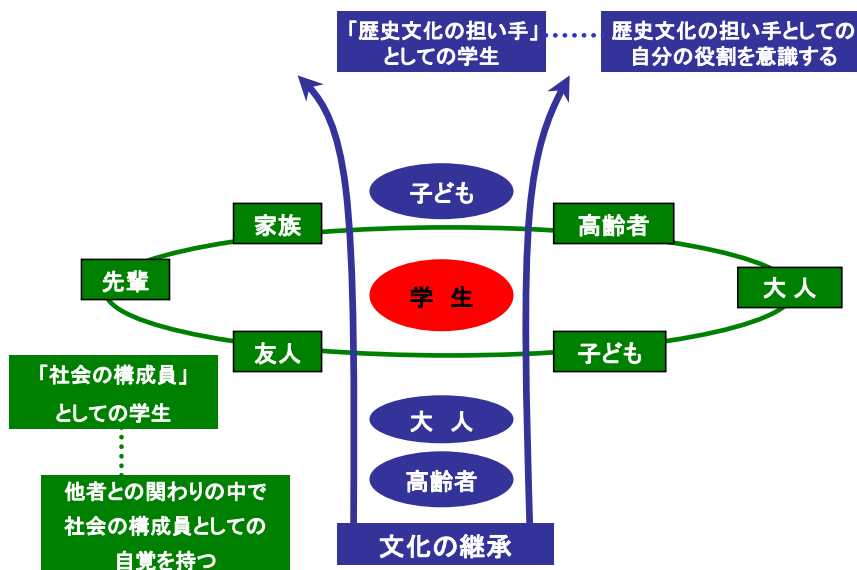


寒梅館夏まつり(子ども300人参加)
【ボランティアスタッフ(100人)アンケートより】



Ⅲ 本取組の概要

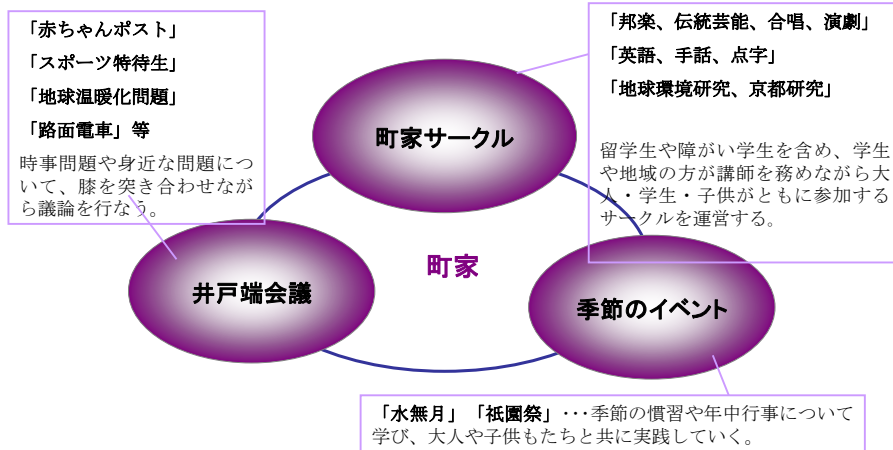
本取組の有効性(効果)



Ⅲ 本取組の概要

町家での継続事業

学生支援センター内にコーディネーターを置くとともに、コアの学生チームを結成し、学生が町家に生活し、ゴミ出し、清掃・防犯当番、回覧板、町内会議、地藏盆・秋祭り・運動会等の地域行事等にも参加しながら、下記の取組運営を行なう。



【町家サークル】

夕方の町家に大学生と小学生、主婦、年配の方が集まってサークル活動を行ないます
(大学生が講師になったり、地域の方が講師になったり、大学生が生徒になったり子どもや主婦が生徒になったりしながら、世代が混交する時空間を設定していきます。)

<例>

	火曜	水曜	木曜	金曜
■15:45～16:45	手話	アニメ作り	そろばん	読書会
■17:00～18:00	茶道 (茶道部)	書道 (書道部)	京都検定 (京都研究会)	英語 (留学生)

【井戸端会議】

夜の町家に学生と近所の方が集まり、膝を突き合せながら諸問題について語り合います。

<例>

テーマ 若年層の学力低下について

参加者 学生、小学校の教員、喫茶店のマスター、中学生の子を持つ主婦、大学教員、教育問題に関心ある金物屋の主人、

ルール 人の話をよく聞くこと

サービス お茶、みかん(差し入れ、お菓子持ち込み歓迎)

<今後のテーマ> 赤ちゃんポストの是非、路面電車、ゴミの分別について…

【季節の行事】

4月 さくら祭り(鴨川でお花見)
出町になじむ日(お餅つき大会)

5月 ビーズアクセサリー(母の日)
御霊祭(子ども神輿など)

6月 しおり作り(父の日)
ほたる鑑賞会
鶴山公園クリーン作戦(清掃活動)

7月 出町七夕夜店
祇園祭を楽しもう

8月 うちわ作り
大文字山登山→大文字鑑賞会
地藏盆(鴨川で花火をしよう)

9月 俳句会(敬老の日)
総合防災訓練(バリアフリー防災) その他多数

IV 本取組の実施プロセス

各年度のプロジェクト

2008年度

<<面白地図を作ろう>>

「職人マップ」「お地藏様マップ」「織機所在地マップ」「老舗マップ」「井戸マップ」「縁台マップ」上京区の様々な地図を作成する。

<<行事や風習を集めて面白カレンダーを作ろう>>

町内会の伝統行事や地域の慣習、年中行事を調べるとともに、学生が地域で生活をしていくときに守るべきマナーや公共心についての心得をまとめ、出版。

2009年度

<<京都のわらべ歌を集めて子どもたちに教えよう>>

京都に伝わる「わらべ歌」や「あそび歌」を聞き取り、子供たちに引き継ぐ。現在の町事情に合った新しい遊び歌を作りCD付きブックとして出版。

<<京都の伝統産業を現代生活の中に生かそう>>

西陣を中心とした京都の伝統産業に関わりながら、現代生活の中に生かしていくための新商品開発を行なう。

2010年度

<<上京カルチャータンを世界に発信しよう>>

町の持つ社会教育機能と地域における大学のあり方を考え、異世代が有機的連関の中で生活・活動する上京区の仕組みを世界に発信するための手段を考える。

地域コミュニティによる学生支援方策 ～京町家を拠点にした異世代共同プロジェクト

- <京都市上京区>の特性(歴史・文化・産業・町内自治)を利用した**地域教育**を目指す。
- 京都の象徴である<町家>に「**子供**」「**学生**」「**大人(高齢者)**」等の**異世代**が出入りし

学生が

- 日常の地域生活・・・「ゴミ出し、清掃・防犯当番、回覧板、町内会、地藏盆」
- 日常の諸活動・・・「町家サークル」「井戸端会議」「季節の慣習」
- 年間プロジェクト・・・「歴史・文化に関わるプロジェクト」

に関わっていく。

- 歴史文化の担い手(先輩から後輩への継承者として)
- 社会の構成員(マナーやルールをによって秩序を守る者として)

→自己の役割と価値を認識し、社会に出るに必要な**ライフスキル**を獲得していく。

【京町家とは？】



【京町家とは？】

「うなぎの寝床」に例えられる「町家」のある町並みはは上京区の原風景

こうした町家の多くは老朽化が進み、居住者も高齢者が多く、改修等が進みにくくなったり、マンションや駐車場になったりして、景観や居住問題が生じていたりもしている。そうした中、町家の改修や空家になった町家の斡旋等、市民主導による町家の活用も進みつつある状況。「格子窓」に「通り庭」に「おくどさん」等、「町家」は、限られた土地を最大限活用して「実用的で美のある暮ら」を実現した京都人の知恵の結集とも言える空間である。



【現在の状況】2008年3月



【現在の状況】2008年3月

●町家の選定(および改修工事)

(でまちや・・・上京区(東端)出町柳に拠点としての町家を賃借)

(でみずや・・・上京区(西端)出水区の町家の一室を週に2回レンタル)

●学生コアスタッフ(40名)による準備

(サークル班/井戸端会議班/季節行事班/プロジェクト班)

(寒梅館においてブレ企画・・・お正月遊びをしよう、親子手話教室)

→いずれも学生と地域の参加者の交流をメインに据える

●挨拶回り(京都の地域社会を構成する要素)

(京極小学校/PTA/上京区役所/)

(自治会・・・出町商店街振興組合/京極福祉連合会/まちづくり委員会
御輿会/少年補導/京極歴史探偵団/出町ホテルの会/・・・)